

施策評価シート (令和3 年度の振り返り、総括)

作成日 令和4 年 06月 20日

施策 No.	8	施策名	国際交流の推進
主管課名	くらし安全課	電話番号	0285-83-8719
関係課名	くらし安全課、市民課、学校教育課		

1. 計画 (Plan)

施策の対象	市民 (在住外国人住民含)						
対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
人口	人	78,874	78,144				
外国人住民数	人	3,486	3,480				

施策の目標	外国人住民と日本人住民が国籍や言葉の壁を越えて、主体的に国際交流を深め相互の生活習慣や文化を理解、尊重し合い、共に地域社会の一員として安心して暮らせるまちとなっています。
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法 (算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を行っている市民の割合は、市民意向調査を使用する。 姉妹校締結中学校数は、締結校数とする。 国際交流を行っている団体数は、国際交流協会の団体会員、及び交流活動に参加した団体数とする。 外国人相談件数は、外国人相談窓口や電話等での相談件数と庁内各課の窓口での通訳補助の件数とする。(1人で複数の相談あり)
-------------------------------	--

成果指標名	単位	平成30年度 基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度 目標値
国際交流を行っている市民の割合	目標値	%	14.0	14.2	14.4	14.6	14.8	15.0
	実績値			13.1	14.7			
姉妹校締結中学校	目標値	校	6	6	6	6	6	9
	実績値			6	6			
国際交流を行っている団体数	目標値	団体	20	21	22	23	24	25
	実績値			10	10			
外国人相談件数	目標値	件	7,222	7,277	7,333	7,388	7,444	7,500
	実績値			7,125	5,223			
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民の役割：国際理解に努め、積極的に国際交流に関わります。</p> <p>行政の役割：国際交流を行う団体との連携を図り、交流の場を拡充します。 多言語による相談体制を充実させ外国人住民が安心して暮らせる環境を整備します。</p>
-------------------------	---

2. 実行 (Do) →個別事務事業の実施による (事務事業マネジメントシート参照)

3. 検証・評価と今後の方向性 (Check&Action)

(1) 施策目標達成に対する要因分析と課題 (①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証)

1. 国際交流イベントの開催

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度はこれまで実施してきた様々なイベントが全て中止となったが、令和3年度は「災害時外国人サポートボランティア養成講座」、「益子焼手びねり体験講座」、「筆ペン講座」を開催し延べ65人が参加しており、「国際交流を行っている市民の割合」が1.6%増加した要因の一つと考えている。国際交流イベントは、相互理解を深める大切な機会であり、更に感染対策をしながらイベントを開催する必要がある。

2. 多言語による相談支援

ポルトガル語、スペイン語、英語、タガログ語による日常生活相談や庁内各課の窓口での通訳補助を行ってきたが、外国人相談件数は、昨年より27%減少した。相談内容では、ワクチン接種やワクチンパスポートの申請などコロナに関する相談が増加する一方、市民課の窓口で外国語の各種申請書の書き方を掲示したこと、こども手当の現況届が郵送できるようになったこと、税金の分納相談によりコンビニ納付が増えたこと等により、外国人相談窓口を介さなくても外国人が申請等が可能な態勢が整えられてきたことにより、相談件数が減少したものと考えている。外国人の人数は、昨年より6人減少で大きな増減はないが、引き続き日常生活や社会活動の変化等に対応した丁寧な相談が必要である。なお、その他の言語による相談は、ポケットーク(多言語通訳機)を利用して行った。

3. 国際交流を行う団体との連携

「国際交流を行っている団体数」は、令和2年度と変わらず目標を大きく下回っている。新たに国際交流を行う団体が発足する情報はないため、既存の国際交流団体との連携を継続する。

また、日常生活や社会活動の変化等に伴い、日本語教室の充実や日本語教室の指導者のスキルアップが求められる。

4. 中学校の姉妹校交流を通じた国際交流を担う人材育成

「姉妹校締結中学校」6校は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、海外渡航、及び受入は中止となったが、オンライン等を活用した交流を推進した。二宮地区3中学校(長沼・久下田・物部中学校)の姉妹校締結に向け、オーストラリアのハーヴィー・シニアハイスクールとのオンライン交流を実施した。

国際交流を担う人材を育成するには、更にICTを活用したオンラインによる日常的な交流機会を多くの生徒に与えるとともに日常生活で外国語に触れる機会を与えるような取組みが求められる。

(2) 今後の方向性 ((1) の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す)

1. 日本人と外国人の交流機会として、感染対策を実施しながら「きもので街あるき」や「日本料理講座」の開催、オンラインによる事業などを実施する。

2. 多言語による相談支援として、引き続き、ポルトガル語、スペイン語、英語、タガログ語による日常生活相談を実施する。相談にあたっては、日常生活を取り巻く最新情報を入手し、適切に提供していく。なお、市内に在住する外国人の出身国籍の状況を見ながら、その他の言語による相談支援を検討していく。

3. 国際交流を行う団体との連携として、地域住民とのコミュニケーションを図るうえで、日本語の理解が重要であり、日本語教室の運営支援、日本語教室の指導者スキルアップ講座の開催を進める。また、今年度新たに開校した「真岡みらい日本語学校」と国際交流の面から連携を働きかける。

4. 姉妹校交流については、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況にあることから、今後もオンライン等を活用し、姉妹校との関係性の維持向上を図る。また、令和4年度にオーストラリア、ハーヴィー市との友好都市締結が予定されていることから、友好都市との交流を進める中で、二宮地区3中学校の姉妹校締結に向けた具体的な取組を進めて行く。

